



記入日	西暦 2020 年 1 月 15 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	日本で初の「土砂災害マイタイムライン」で出前発表
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 30000 円
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年①9/12②9/20③11/9④12/3⑤12/8⑥12/15
実践の所要時間	1 回につき約 40 分 6 回の合計時間 約 4 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 30 人
防災教育の対象者の属性	① 全児童と保護者 ②～⑥学区内の地域の人々
防災教育の対象者の人数	約 250 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市常磐東学区
実践を行った具体的な場所	① 学校 ②安戸町③米河内町④大柳町⑤新居町⑥小丸町 ② ～⑥は、学区内の町名で、場所は各町の公民館
★実践に必要なだった特定の能力	とくになし

<p>達成目標</p> <p>社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください</p>	<p>1 地域の人々に関する目標</p> <p>○防災アンケートでは災害が発生しても家にいると答えた人が、107 人 (43%) であった。多くの人の危機意識の弱さを感じる。</p> <p>○災害は甚大化傾向にある。「被災されても自宅にいる」と答えた人 親子のコミュニケーションツール に、「土砂災害マイタイムライン」を実施したい。学区で最も心配な土砂災害で、「いつ」「誰が」「何をするのか」を家族で話し合い災害に備えることをさせたい。</p> <p>○また、「土砂災害マイタイムライン」を使い防災を話し合うための家族コミュニケーションツールの 1 つとしたい。</p>	
---	--	--



	<p>2 児童に関して目標 ※「土砂災害マイタイムライン」は別紙参照</p> <p>○「土砂災害マイタイムライン」を親子で実施することで、家族の防災の役割を考えさせたり、準備の大切さを感じ取らせたりしたい。</p> <p>○「土砂災害マイタイムライン」を地域の人に説明するために、学習することで、避難準備・避難勧告・避難指示や警戒レベル1～4について、事前に学ぶことができる。</p> <p>○「土砂災害マイタイムライン」を、児童が、地域の方に自分の言葉で説明することで、表現力・判断力・思考力を培わせたい。</p> <p>○地域の人に説明したりすることで、地域に貢献しているという事故存在感や達成感を体感することができる。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p> <p><u>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</u></p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p> <p>これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません</p>	<p>①「土砂災害マイタイムライン」は 防災会議（教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなるメンバー15名前後）で作成。</p> <p>○防災会議① 5月22日 13名参加  防災指導員の内藤さんと中根さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土砂災害マイタイムライン」を作成することを協議で決定する。 ・主な内容は、本年度のテーマを「避難」として、「土砂災害」に遭遇した時に、「だれが」「いつ」「何をするのか」などを考えさせたい。 <p>○防災会議② 7月10日 15名参加 「内容の審議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担：①最初のたたき台を「大学」が提出した。②防災会議で内容を協議し、授業で児童にも意見を求め、学校で修正し、印刷。 <p>○実践①親子防災学習 学校の体育館 9月12日 約40分 約90人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館で、本校在学の28世帯の親子が「土砂災害マイタイムライン」を実施。最初に教師が全体でやり方の説明をした後、親子で真剣に話し合って、シールをはったり、シールがないことについては <p> 親子で内容を相談する様子</p>	



	<p>直接用紙に記入したりした。</p> <p>②実践② 出前防災発表 安戸町公民館 9月22日 約30分 約30人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に校長が総代にお願いして、安戸町の集會に校長が参加して「土砂災害マイタイムライン」を実施。どの人もシールを貼るだけであったが、説明を聞いて楽しそうに家族と話をしながら行っていた。地域の小学生も集會に参加しており、家族で再び「土砂災害マイタイムライン」を実施。そこに参加した6年児童は、自分たちでも「マイタイムライン」の出前発表ができそうだと感じたそう。 <p>③実践③ 出前防災発表 米河内町公民館 11月9日 約40分 約40人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風15号や19号の時に、「警戒レベル4」となり「避難勧告」や「避難指示」が出された。しかし、「どこへ避難したらよいか、何を持っていくか、わからない」という意見が多くあり、亡くなった人も多数出たことを知った。 ・6年児童が初めて、日曜日に出前防災授業を企画した。米河内の集まりを知り、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決め学校で練習をして、「土砂災害マイタイムライン」を実施した。 <p>④実践④ 出前防災発表 大柳町公民館 12月3日 約40分 約30人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方が集會に多く集まることを知り、個別に丁寧な説明が必要だと判断して総合的な学習の授業を使い、全員で参加した。 ・6年生全員で6名が担当を決めて、「土砂災害マイタイムライン」を実施した。 <p>⑤実践⑤ 出前防災発表 新居町公民館 12月8日 約40分 約30人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新居町の出前防災授業を企画し、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決めて実施した。 <p>⑥実践⑥ 出前防災発表 小丸町公民館 12月15日 約40分 約30人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小丸町の出前防災授業を企画し、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決めて実施した。
<p>得られた成果</p> <p>どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください</p>	<p>① 愛知県より、「土砂災害特別警戒区域」として117か所指定されている。「土砂災害マイタイムライン」は、この地域にとって有効な方法であると感じた。(地域性)</p> <p>② 「土砂災害マイタイムライン」を本年度本校が独自に作成した。</p>



	<p>マイタイムラインは、多くあるが、土砂災害を対象としたのは全国初であると、愛知工業大学の小池則満教授は述べられた。(独自性)</p> <p>③ 「マイタイムライン」は実施することが大切で、配付するだけでは功を成さない。「地域の方が学校に来られないのであれば、自分たちが地域の集会に参加してやってはどうか」と考えて出前発表を実施した。(自主性)</p> <p>④ お年寄りの方々に寄り添い、その場で判断して、自分の言葉で考えてわかりやすく説明をすることができた。(判断力・思考力)</p> <p>⑤ 「土砂災害マイタイムライン」を説明するためには、書かれている「避難警告」「避難指示」、「警戒レベル」等の言葉についても、知識として知っておくことが必要と感じて学んだ。(知識・理解)</p> <p>⑥ 地域の人々と直接かわり感謝されることで、児童は、「自分は地域の人々のために役立っている」という自尊感情が達成感となり、さらに学ぶことへの楽しさや意欲につながっている。(学ぶ意欲)</p>	 <p>小池則満教授</p>  <p>お年寄りに寄り添い説明する児童</p>
<p>どのくらい身につきましたか？</p> <p>該当しないものを削除し該当するものを残す</p>	<p>知識・技能</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p> <p>大いに</p> <p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p> <p>やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください</p>	<p>① 「土砂災害マイタイムライン」作りで、最初はどのように作ってよいか全くわからなかったが、防災会議での多くの皆様のご意見で次第に形やデザイン、内容なども向上してきた。</p> <p>② 地域に出向くのに、なかなか集まりがいつあるのかわからずに困っていたが、防災会議で総代会長さんや社教委委員長さんから声をかけていただき、スムーズに参加することができた。</p>	



	<p>③ 土・日などの集会では、塾やクラブなどがあり、自主的に児童が集まらないことも予想したが半数以上の子が参加でき、保護者も児童の願いで、集会の会場まで送迎をしてくださり、スムーズに出前発表が実施できた。</p>	 <p>自分の言葉で必死に説明する児童</p>
--	---	---

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>学区社会教育委員会(社教) や学区総代会や愛知工業大学</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>7年前から本校のためにいろいろとアドバイスをいただいている</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>大学 (Tel 0 5 6 5 - 4 8 - 8 1 2 1)</p>

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>常磐東小学区の地域の皆さん</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>地域のみなさんが、ご多用の中時間を割いて、子供たちの説明をずっと耳を傾けて聞いてくださり本当にありがとうございました。</p> <p>説明も最初の地域では声も小さく、説明の仕方も何を言っているのか棒読みではっきりわからない面がありました。地域の皆さんが、がまんして耳を傾けて静かに聞いていただいた、おかげで児童が「次も発表したい」と言うようになってきました。本当にいろいろな面で成長できました。</p>
<p>伝えたい相手</p>	<p>常磐東小学校 6年生児童</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>児童が率先して「土砂災害マイタイムライン」を出前で発表できたことはすばらしい。今回、自分で言葉を考え、伝わるように判断し、相手に応じて表現することができたことは大きな成長です。</p>



自分で言葉を考え丁寧に説明する児童